

## 単元について

### ○ 単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語科第1学年及び第2学年、「B 書くこと」の言語活動例「イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。」を通して「B 書くこと」の指導事項「イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」「ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。」を指導するものである。

本単元では、体育科「跳の運動遊び」で行う「なわとび大かい」で自分が経験したことを家族に伝えるための報告文を書く言語活動を位置付ける。報告文を書くことで、伝えたい出来事について、したことや思ったこと、周りの様子など、必要な事柄を書き出して事柄の順序に沿って並べる力を身につけることをねらいとしている。また、報告文を家の人に読んでもらうことを通して、経験したことを言葉にして書いて伝える喜びや楽しさを感じさせることで、書くことに対する関心・意欲を高めることができる単元でもある。

### ○ 児童観

本学級の児童は、1学期に「ぶんをつくろう」の単元で、主語と述語の関係に注意して文を書くことを学習し、「～が～する。」の形で文を書くことができるようになった。しかし、どのような文でも一人称で書き始めてしまい、主語と述語が繋がっていない児童がいる。「えにっきをかこう」の単元では、生活の中で経験したことから、どんな出来事か伝わるように、つながりのある文章を書き、絵と合わせて表現する学習をした。併せて家庭学習で絵日記を書く機会を多く設けたことにより、「したこと」「そのときの様子」「思ったこと」の三段落で書くことが定着してきた。2学期の「わたしの はっけん」の学習では、メモをもとに記録文を書く学習をしており、自分が経験したことをもとにメモを書くことができた児童は100%であった。しかし、メモをもとに、「見た日・場所・もの」「気付いたこと」「思ったこと」を正しく分けて観察文を書くことのできた児童は81.8%であり、文章を正しく構成することに課題がある。

### ○ 指導観

本単元に取り組む前に、体育科において、なわとび遊びを経験し、「なわとび大かい」を開く。「なわとび大かい」では、児童同士で良かったところや凄と思ったことを言い合わせ、楽しかったという思いをもたせ、学習への意欲を高めさせる。

課題の設定では、体育科での学習を想起させ、「なわとび大かい」で自分が経験したことを家族に伝えたいという思いをもたせる。家族に伝えるには、文章にして伝えるとよいことに気付かせ、伝わりやすい書きかたを学ぶ必要があることを理解させる。

情報の収集では、したことを詳しく思い出して事柄の順序に沿って書く。体育の時間に行ったなわとびあそびでしたことや思ったことを1つずつ短冊カードに書き出し、並べさせる。その際、順序を表す言葉のあるモデル文と無いモデル文を比較することによって、順序を表す言葉を使うと、順序よくつながりのある文章が書けることを理解させる。また、かぎ（「」）のある文章と無い文章を比較し、文の中にかぎ（「」）を取り入れることで、様子や思いがより伝わることも理解させる。

整理・分析の段階では、情報収集で学習したことをもとに、「なわとび大かい」で経験したことを短冊カードに書き出させ、順に沿って並べさせる。その短冊カードをもとに、まとめ・創造・表現で、順序を表す言葉やかぎ（「」）を取り入れながら、経験したことを報告する文章を書かせる。

振り返りでは、完成した報告文を家族に渡し、感想をもらうことで、順序を表す言葉やかぎ（「」）を取り入れて経験したことを書くことよきよきに気付かせたい。

## 単元の目標

- 知らせたいという思いを膨らませて、経験したことを伝える文章を書こうとする。  
【関心・意欲・態度】
- 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考慮することができる。  
【書くこと イ】
- 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くことができる。  
【書くこと ウ】
- 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。  
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ア)】

## 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
【言語活動】 「なわとび大かい」で自分がしたことを報告する文章を書く。		
知らせたいという思いを膨らませて、経験したことを伝える文章を書こうとしている。	伝えたい出来事について、したことや思ったこと、周りの様子など、必要な事柄を書き出して事柄の順序に沿って並べている。 順序を表す言葉を用いながら、経験した出来事について、つながりのある文章を書いている。	経験した出来事を伝える活動を通して、順序を表す言葉を用いて書くよさに気付いている。

## 単元で育成したい資質・能力

	A	B
【主体性】	・知らせたいという思いを膨らませて、より伝える文章を書きたいという思いをもち、経験したことを伝える文章を書こうとしている。	・知らせたいという思いを膨らませて、経験したことを伝える文章を書こうとしている。
【思考力】	・伝えたい出来事について、したことや思ったこと、周りの様子など、必要な事柄を書き出して事柄の順序に沿って並べ、書きたいことに合わせて情報を取捨選択している。 ・順序を表す言葉を用いながら、経験した出来事について、つながりのある文章を書き、その時の様子や気持ちが伝わるように工夫しながら書いている。	・伝えたい出来事について、したことや思ったこと、周りの様子など、必要な事柄を書き出して事柄の順序に沿って並べている。 ・順序を表す言葉を用いながら、経験した出来事について、つながりのある文章を書いている。
【自己理解】	・経験した出来事を伝える活動を通して、順序を表す言葉を用いて書くよさに気づき、次の学習へ学びをつなげようとしている。	・経験した出来事を伝える活動を通して、順序を表す言葉を用いて書くよさに気付いている。

# 指導と評価の計画

全7時間

次	時	学習内容	評 価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
		<b>体育</b> (1 1月) ○なわとび遊びを通して、「なわとび大かい」を開く。					
一	1	<b>課題の設定 (1)</b> ○「なわとび大かい」の活動を振り返り、自分がしたことを、家の人に伝えたいという思いをもつ。 ・文章で伝えると、口頭で伝えるよりも、読んだ相手に間違いなく伝わるということに気付く。 ・間違いなく伝わる文章を書くためには、文章の書き方を知る必要があることに気付き、本単元の学習計画を立てる。	○			・「なわとび大かい」の活動を振り返り、自分がしたことを、家の人に書いて伝えたいという思いをもち、学習計画を立てようとしている。	行動観察 ノート
二	2 ・ 3	<b>情報の収集 (3)</b> ○したことを詳しく思い出して事柄の順序に沿って書く。 ・体育の時間に全員で行ったなわとびあそびでしたことや思ったことを1つずつ短冊カードに書き出し、したことの順に沿って並べる。 ・文例から、順序よくつながりのある文章を書くためには順序を表す言葉を使うことが大切であることを理解し、短冊カードに順序を表す言葉を書き入れる。		○		・したことや思ったことを1つずつ短冊カードに書き出し、事柄の順序に沿って並べている。 ・順序を表す言葉を使うことのよさに気付き、短冊カードに書いている。	行動観察 短冊カード ノート
三	4	○文の中にかぎ(「J」)を取り入れることで、様子がより伝わることを理解し、かぎ(「J」)のある文を書き入れる。 ・かぎ(「J」)のある文と無い文を比較し、かぎ(「J」)があるよさに気付く。 ・短冊カードにかぎ(「J」)のある文を書き、順序を考えて前時に書いた短冊カードと共に並べる。 <b>【本時】</b>		○		・短冊カードにかぎ(「J」)のある文を書き、順序を考えて他の短冊カードと共に並べている。	行動観察 短冊カード
四	5	<b>整理・分析 (1)</b> ○前時までの学習をもとに、「なわとび大かい」で経験したことを報告する文章を書く。 ・短冊カードを用いて、不足している言葉を補いながら、順序を表す言葉とかぎ(「J」)のある報告文を書く。		○		・伝えたい出来事について、したことや思ったこと、周りの様子など、必要な事柄を書き出して事柄の順序に沿って並べている。	行動観察 短冊カード
	6	<b>まとめ・創造・表現 (1)</b> ○家の人に読んでもらうために、前時に書いた「なわとび大かい」の報告文をもとに、友達同士で本当に伝わりやすいかどうかを確かめ合う。		○		・伝えたい出来事について必要な事柄を時間の順序に沿って文章に書き、かぎ(「J」)を取り入れながら、必要に応じて修正している。	

次	時	学習内容	評 価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
六	7	<p><b>振り返り（１）</b></p> <p>○完成した報告文を保護者に渡し、「なわとび大かい」の後、保護者から報告文に対する感想を貰い、経験したことを報告する文章の書くことのよさに気付く。</p> <p><b>学びのモニタリング</b></p> <p>○自らの学びや学び方を振り返る。</p> <p>・経験したことを報告する文章を書くときに、順序を表す言葉を用いたりかぎ（「」）を取り入れたりすることで、伝わりやすい文章を書けるようになったことに気付く。</p>	○			<p>・経験したことを報告する文章の書き方をふり返り、文章を書くときに生かそうとしている。</p>	<p>行動観察 ワークシート</p>

## 本時の学習

### （１）本時の目標

- 文の中にかぎ（「」）を取り入れることで様子がより伝わることを理解し、かぎ（「」）を取り入れた文を短冊カードに書き入れることができる。

### （２）本時の評価規準

- 文の中にかぎ（「」）を取り入れることで様子がより伝わることを理解し、かぎ（「」）を取り入れた文を短冊カードに書き入れている。 **【書く能力】**

### （３）本時の学習展開（４時間目／全７時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>めあて ようすが もっとつたわる かきかたを かんがえよう。</p>	<p>◇より伝わりやすい文を書いて家族に読んでもらうという単元の目標を確認する。</p>	
<p><b>本時のゴールの見通し</b></p> <p><b>A</b>：文の中にかぎ（「」）を取り入れることで様子がより伝わることを理解し、自分が一番伝えたいことに合うようにかぎ（「」）を取り入れた文を付箋に書き入れている。</p> <p><b>B</b>：文の中にかぎ（「」）を取り入れることで様子がより伝わることを理解し、かぎ（「」）を取り入れた文を付箋に書き入れている。</p>		
<p>2 かぎ（「」）のある文章と無い文章を比較し、どちらがより伝わりやすいか考える。</p> <p>○かぎがある文章と無い文章では、どちらが伝わりやすいですか。</p>	<p>◇鉄棒練習のモデル文を２つ掲示する。</p> <p>◇モデル文を見比べて、かぎ（「」）がある文章と無い文章であるという違いがあることを押さえ、かぎ（「」）がある方が、より伝わりやすいことに気付かせる。</p>	

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される児童の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす児童の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p>
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>□思考の場の工夫 <b>比較する</b></p> <p>かぎ(「」)がある文章と無い文章を比較させ、かぎ(「」)がある文のよさを考えさせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある方です。理由は、どんなことを言ったのかよく分かるからです。</li> <li>・あった方が、どのように言ってもらったかがよく分かります。</li> <li>・ない方です。理由は、短くてすぐに読めるからです。</li> </ul> <p>3 短冊カードにかぎ(「」)を取り入れた文を書き、前時に自分が書いて並べた短冊カードと共に並べ、友達同士で読み合って内容を確認合う。</p> <p>4 全体で共有する。</p> <p>5 本時の学習のまとめをする。</p>	<p>◇「伝わりやすい」文章とは、長さや書き易さではなく、読む人にとって分かりやすい文章であることを押さえる。</p> <p>◇ペアで考えさせ、どちらがよいか考えさせる。</p> <p>◇なわとびあそびで自分がアドバイスしたこと、友達から教えてもらったことや言ってもらって嬉しかったことを思い出させ、かぎ(「」)を使って短冊カードに書かせる。</p> <p>◇短冊カードを、事柄の順序を考えながら、前時に並べた短冊カードの中に加えさせる。</p> <p>◆体育の時間に用いた、自分の言ったことや言ってもらったことの書かれている「ふきだしえ日き」を見て、話したことを思い出させる。</p> <p>◇児童同士で読み合わせ、より伝わりやすい文章にするためには、かぎ(「」)を入れる場所や、入れる言葉をどのようにすればよいか考えさせる。</p> <p>◇書いた文を発表させ、入れる前と後と比較させることで、文章がより伝わりやすくなったことを実感させる。</p> <p>◇かぎ(「」)を入れた自分の文章がどのようによくなったかを、全体で発表させる。</p> <p>◇かぎ(「」)を使うと文章がより伝わりやすくなったことを確認し、次時の「なわとび大かい」の報告文を書く活動につなげる。</p>	<p>◎文の中にかぎ(「」)を取り入れることで様子がより伝わることを理解し、かぎ(「」)を取り入れた文を短冊カードに書き入れている。(行動観察・短冊カード)</p>
<p>★めざす児童の姿</p> <p>かぎを入れるまえは、どんなアドバイスをもらったのかわからなかったけど、かぎを入れるとともだちになんていってもらったのかがよくわかるようになったので、かぎを入れて文しょうをかくようにしたいです。</p>		

(4) 板書計画

<p>おうちの人に つたえよう！ 「おもいだして かこう」 めあて ほうぶんがかいた文しようをよりよくする ほうぶんがかいた文しよう</p>	<p>ぼくは、十一月十七日、たいいくのじかんにて つぼうあそびをしました。 まず、ともだちにアドバイスをもらいました。 つぎにじめんをつよくけりました。さかあがり ができました。 うれしかったので、つぎもがんばります。</p>	<p>ぼくは、十一月十七日、たいいくのじかんにて つぼうあそびをしました。 まず、まわるまえにともだちに、 「じめんをおもいつきりけつたらいいよ。」 とアドバイスをもらいました。つぎにじめんをつ よくけりました。さかあがりことができました。 うれしかったので、つぎもがんばります。</p>	<p>まず、ともだちにアドバイスをもらいました。</p>	<p>「じめんをおもいつきりけつたらいいよ。」</p>	<p>つぎに、じめんをつよくけりました。</p>	<p>さかあがりできました。</p>	<p>まとめ かぎをつかうと、ようすやきもちがつたわ りやすい。</p>
--	---	--	------------------------------	-----------------------------	--------------------------	--------------------	--



